

入学前の現代中国学部への興味度からみた 中国留学に対する興味と不安に関する実態調査 — 『現地プログラム生活事前教育』の講義による中国留学生活における 不安の軽減と健康維持対策をめざして—

松岡弘記*

I. 緒言

本学の現代中国学部（以下現中学部と称す）におけるカリキュラムの特徴の一つには、中国天津市にある南開大学で実施される「現地プログラム（以下現プロと称す）」がある。このプログラムは、2年次の3月～7月までの4ヶ月間に現中学部の2年次生約180名が全員参加し、卒業要件の一部として単位を取得しなければならない中国留学プログラムである。

この4ヶ月間は、南開大学内にある南開愛知大学会館内で学生全員が、宿泊して集団生活を行う。また、この会館内の教室で授業を受け、同じ会館内にある居室にて生活をする。居室は二人部屋となっており、共同で生活をする。さらに、朝・昼・夕の三食が提供される食堂も会館内にある。

この4ヶ月間は、中国に留学して全く日本とは異なる生活環境にて過ごすこととなる。このために中国で留学生活を始める前の1年次の秋学期には、学生に中国とそこでの生活を十分に理解して実践させるために「現地プログラム基礎」と「現地プログラム生活事前教育」の講義を全員履修で行なっている。

「現地プログラム基礎」は、第3セメスターに実施される現プロの事前教育を目的として、教員のリレー講義により、中国に関する基礎知識や、留学先の天津市や南開大学の歴史や現状、さらには現地で生活する上で必要な一般常識や最新情報、中国語学習法や検定試験など、現プロ参加時に必要な内容を講義して事前にしっかり学ばせる。

一方、「現地プログラム生活事前教育」は筆

者が担当しており、現プロにおいて、いきいきと健康な生活を送ることができる知識と行動の実践能力を身につけることをねらいとしている。この講義では、「運動」・「栄養」・「休養」の健康の3本柱を中心に中国での4ヶ月間の現プロ中に病気に罹らず、自分の健康は自分自身でしっかり管理できる知識と行動力を十分に身につけさせる講義内容となっている。

このように現中学部は中国留学を全員に義務づけている特色ある学部である。しかし、現中学部に入学する学生は、すべてが現中学部や中国に興味をもっているとは限らず、他大学や本学の他学部を受験しながらも合格せずに不意ながら現中学部に入学した学生や現プロの存在さえも知らずに受験して入学した学生もいる。このような学生達には、今後、現中学部で学んでいくためにも、また、現プロへ送り出す以前にも中国に対する興味付けが必要となる。

一方、最近の日本のマスメディアで報道されるニュースでは、中国での食の危険性についての問題や反日デモなどの中国のマイナス面が大きく取り上げられている。現中学部へ入学する学生達は、中・高校生時にこのような問題にテレビや新聞の報道で直面しており、さまざまな中国留学に対する不安を抱えているものと思われる。

このため入学前に現中学部に対しての興味程度や中国への興味程度と留学に対する不安感の関係を明らかにし、また、入学した学生達がどのような不安を有しているのかを知り、それらの不安の軽減を図り、中国生活に興味を見いだすような「現地プログラム生活事前教育」の

*本学現代中国学部 教授

教育内容の一層の改善が必要であると考えられる。このような授業改善によって一層中国への興味度や関心が強くなり、中国現地での勉学意欲向上のための動機付けや中国現地での生活へのスムーズな導入がより効果的にできるものと思われる。

そこで本研究では、現在、入学してくる学生達が、入学前に現中学部に対する興味程度や中国への興味程度がどうなのか、また、現プロへの興味と参加する上での不安がどの程度有り、どんな健康上の不安を抱えており、現地での生活上の不安は何なのか、そして、「現地プログラム生活事前教育」の授業で何を知りたいのかをアンケートで調査し、その実態を明らかにし、今後の授業改善のための基礎資料を得ることを目的とした。

II. 方法

平成22年度秋学期の「現地プログラム生活事前教育」の履修者に対して、第1回目のオリエンテーションの講義時間内にアンケート調査を実施した。表1にそのアンケート用紙を示した。質問項目が15項目からなる記述式アンケートを記名で行った。

その質問項目の内容は、入学前の現中学部への興味、現中学部を知った理由と受験した理由、中国への興味度とその興味の理由、春学期後の中国への興味の変化、入学前の現プロ認識と興味度およびその興味の理由、現在の現プロへの不安の有無とその不安の理由、現在の健康上の不安とその不安の理由、現在の現プロ生活上の不安の理由と授業で知りたいことであった。

配付したものはすべて回収し、その日に出席した173名の回答を得た。性別は男性87名、女性86名であった。

実施したアンケートの問1の回答から入学前の現中に対する興味程度により、グループ分けをした。回答の「かなりあった」をA群とし、「少しあった」をB群とし、「全くなかった」をC群とし、質問項目に対して各グループ別の回答の単純集計と群内での回答の割合を求めた。

また、記述式回答については、各質問項目の

回答からカテゴリー別に集計し、同じように各グループ別の回答の単純集計と群内での回答の割合を求めた。

III. 結果と考察

1. 入学前の現中学部への興味

図1に入学前の現中学部への興味度について示した。興味が「かなりあった」者は46名、「少しあった」者は104名であり、何等かの興味がある者は全体の87%であった。逆に興味が「全くなかった」者は、23名であり、全体の13%が現中学部に興味がなくて入学していた。

2. 現中学部を知った理由と受験した理由

表2に現中学部を知った理由（問2）と現中学部を受験した理由（問3）について、理由の①から⑥のカテゴリー別に各群別の回答者数を示した。また、図2と図3に各群を100%として、それぞれ問2と問3の群別の回答の割合を示した。

現中学部を知った理由の第1位は、A群もB群も「④高校の先生」であり、それぞれ17名（37.0%）と43名（41.3%）であり、その合計は

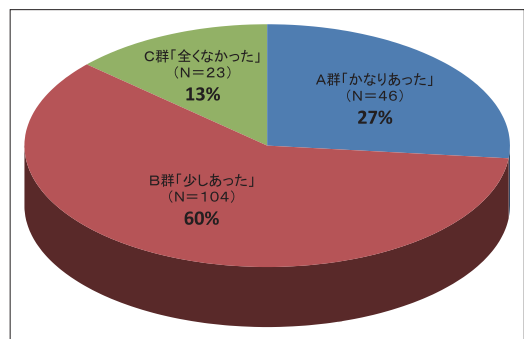


図1. 入学前の現中学部への興味度

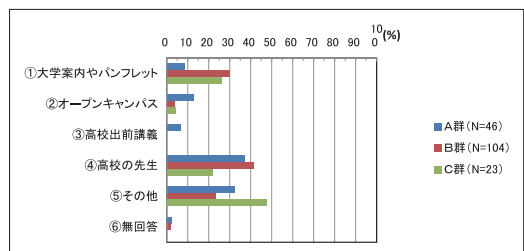


図2. 現中学部を知った理由

表1. アンケート調査用紙

2010現地プログラム生活事前教育アンケート調査

本講義の一層の改善を図るために本アンケート調査を実施致します。個人情報やアンケート調査結果に関しては、個人のプライバシーに十分配慮して取り扱い、本来の目的以外に使用致しませんので、ご協力の程よろしくお願い致します。

学籍番号 _____ ふりがな氏名 _____ 中国語クラス _____

- 問1. 入学前に現中に興味がありましたか？（かなりあった・少しあった・全くなかった）
- 問2. 現中をどうやって知りました？（ _____ ）
- 問3. 現中をどうして受験しようと思いましたか？
（ _____ ）
- 問4. 中国に興味がありますか？（かなりある・少しある・全くない）
- 問5. 問4で興味がある人は何に興味がありますか？（ _____ ）
- 問6. 春学期に現中で勉強して中国への興味はどうなりましたか？
（大変増した・少し増した・変わらない・少し減った・大変減った）
- 問7. 入学前に「現地プログラム」を知っていましたか。（知っていた・知らなかった）
- 問8. 現在、「現地プログラム」に興味がありますか？
（大変ある・少しある・どちらでもない・全くない）
- 問9. 問8で興味がある人は何に興味がありますか？
（ _____ ）
- 問10. 現在、「現地プログラム」へ参加することに不安がありますか？
（大変ある・かなりある・少しある・全くない）
- 問11. 問10で不安がある人は、どんなことが不安ですか？
（ _____ ）
- 問12. 現在、健康上に不安はありますか？（かなりある・少しある・全くない）
- 問13. 問12で健康上の不安がある人は、どんなことが不安ですか？
（ _____ ）
- 問14. 現在、「現地プログラム」の生活上でどんな不安がありますか？
（ _____ ）
- 問15. 「現地プログラム生活事前教育」の授業で知りたいと思っていることは何ですか？
（ _____ ）

ご協力ありがとうございました。

表2. 現中を知った理由、現中受験の理由、中国への興味度とその理由、春学期後の中国への興味変化、入学前の現プロ認識、現プロの興味度とその理由についての各群別の回答数.

問2. 現中をどうやって知りましたか。	A群 (N=46)	B群 (N=104)	C群 (N=23)	計
①大学案内やパンフレット	4	31	6	41
②オープンキャンパス	6	4	1	11
③高校出前講義	3	0	0	3
④高校の先生	17	43	5	65
⑤その他	15	24	11	50
⑥無回答	1	2	0	3
問3. 現中をどうして受験しましたか。	A群 (N=46)	B群 (N=104)	C群 (N=23)	計
①中国語に興味があり、勉強したい	15	33	2	50
②中国や中国文化に興味があるため	20	15	0	35
③中国経済に興味があるため	4	5	0	9
④学部カリキュラムに興味があるため	3	10	0	13
⑤その他	3	31	20	54
⑥無回答	1	10	1	12
問4. 中国に興味がありますか。	A群 (N=46)	B群 (N=104)	C群 (N=23)	計
①かなりある	41	31	3	75
②少しある	5	71	15	91
③全くない	0	2	5	7
問5. 問4で興味がある人は何に興味がありますか。	A群 (N=46)	B群 (N=104)	C群 (N=23)	計
①中国の政治・経済	14	34	7	55
②中国の歴史	5	5	1	11
③中国の生活と文化	17	33	3	53
④中国人とのコミュニケーション	7	19	4	30
⑤その他	1	6	3	10
⑥無回答	2	5	0	7
問6. 春学期に現中で勉強して中国への興味はどうなりましたか。	A群 (N=46)	B群 (N=104)	C群 (N=23)	計
①大変増した	18	7	4	29
②少し増した	12	71	11	94
③変わらない	14	26	8	48
④少し減った	0	0	0	0
⑤大変減った	0	0	0	0
問7. 入学前に「現地プログラム」を知っていましたか。	A群 (N=46)	B群 (N=104)	C群 (N=23)	計
①知っていた	46	100	16	162
②知らなかった	0	4	7	11
問8. 「現地プログラム」に興味がありますか。	A群 (N=46)	B群 (N=104)	C群 (N=23)	計
①大変ある	37	29	1	67
②少しある	8	54	14	76
③どちらでもない	0	19	5	24
④全くない	1	2	3	6
問9. 現プロの何に興味がありますか。	A群 (N=46)	B群 (N=104)	C群 (N=23)	計
①中国の大学での授業	6	16	3	25
②中国現地での生活	25	38	7	70
③中国人との交流	7	11	1	19
④名所の観光や買い物	3	3	0	6
⑤その他	3	8	2	13
⑥無回答	1	7	2	10

65名(34.7%)であった。しかし、C群では「⑤その他」の11名(47.8%)であり、その回答の多くは「偏差値一覧」、「赤本」、「ホームページ」であった。全体でみると、「②オープンキャンパス」と「③高校出前講義」はそれぞれ11名(6.4%)と3名(1.7%)であり、かなり少なかった。

現中学部を受験した理由の第1位は、A群は「②中国や中国文化に興味があるため」が20名(43.4%)、B群は「①中国語に興味があり、勉強したい」が33名(31.7%)であったが、C群では「⑤その他」が20名(87.0%)であった。全体では「⑤その他」が1位であり、54名(31.2%)であった。その主な理由は、「偏差値が低く入りやすい」、「愛大に入りたい」、「滑り止め」などであった。

3. 中国への興味度とその興味の理由

表2に中国への興味度(問4)について各群別に回答者数を示し、その興味の理由(問5)について、理由の①から⑥のカテゴリー別に各群別の回答者数を示した。また、図4と図5に各群を100%として、それぞれ問4と問5の群別の回答の割合を示した。

中国への興味度は、A群は「①かなりある」

が第1位で41名(89.1%)、B群とC群は「②少しある」がそれぞれ第1位で71名(68.3%)と15名(65.2%)であった。全体で中国に興味度が「③全くない」は7名のみであり、ほとんどの人(96.3%)が中国に何等かの興味をもっていた。

その中国への興味の理由では、A群では「③中国の生活と文化」が第1位で17名(37.0%)であり、B群とC群では「①中国の政治・経済」が第1位であり、それぞれ34名(32.7%)と7名(30.4%)であった。全体では第1位は「①中国の政治・経済」の55名(31.8%)であり、第2位は「③中国の生活と文化」の53名(30.6%)であった。

4. 1年次春学期後の中国への興味の変化

表2に1年次春学期後の中国への興味の変化(問6)について各群別に回答者数を示した。また、図6に各群を100%として、問6の群別の回答の割合を示した。中国への興味の変化は、A群では「①大変増した」が第1位であり、18名(39.1%)であり、B群とC群では「②少し増した」が第1位であり、それぞれ、71名(68.3%)と11名(47.8%)であった。全体では、「①大変増した」が29名、「②少し増した」が94名

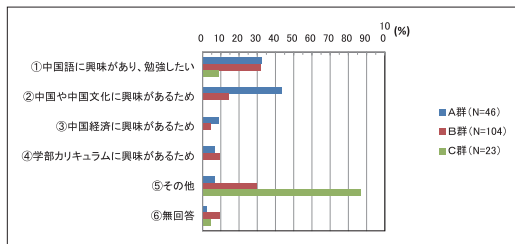


図3. 現中学部を受験した理由

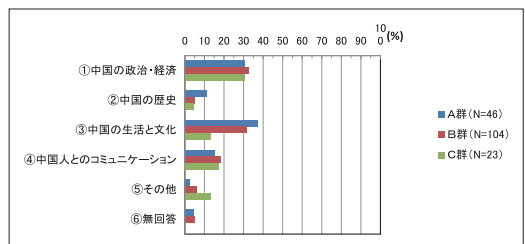


図5. 中国への興味の理由

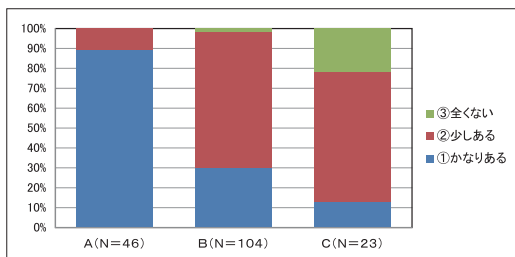


図4. 中国への興味度

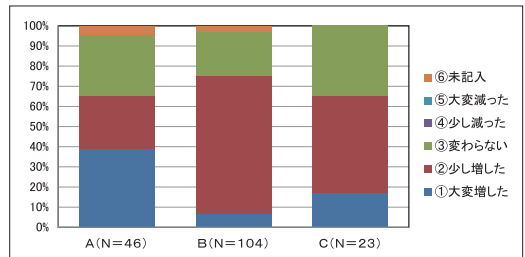


図6. 春学期後の中国への興味の変化

であり、興味が増した人の合計は123名(71.1%)であった。また、1年次春学期の授業によって興味が増した者はいなかった。

5. 入学前の現プロ認識と興味度およびその興味の理由

表2に現プロへの認識度(問7)と興味度(問8)について各群別に回答者数を示し、その興味度の理由(問9)について、理由の①から⑥のカテゴリー別に各群別の回答者数を示した。また、図7、図8と図9に各群を100%として、それぞれ問7、問8と問9の群別の回答の割合を示した。

現プロへの認識度は、現プロを知らなかったのはB群の4名とC群の7名だけであり、全体で11名のみであり、ほとんどの人(93.6%)が現プロを知っていた。また、現プロへの興味

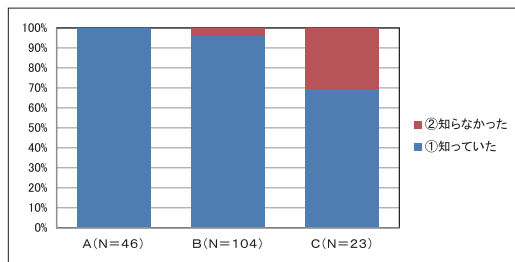


図7. 現プロへの認識度

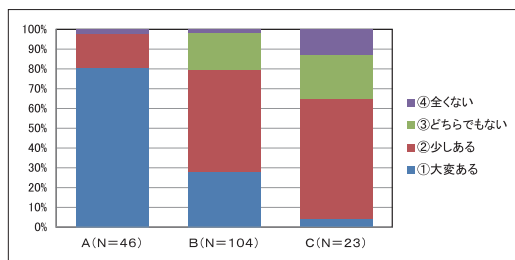


図8. 現プロへの興味度

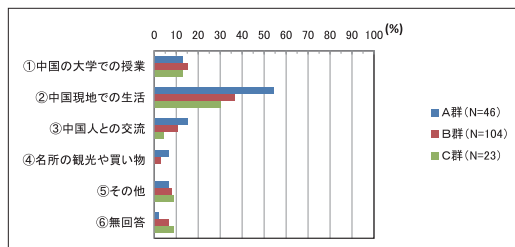


図9. 現プロへの興味の理由

度は、A群は「①かなりある」が第1位で37名(80.4%)、B群とC群は「②少しある」がそれぞれ第1位で54名(51.9%)と14名(60.9%)であった。全体で現プロに興味度が「③全くない」は6名のみであり、ほとんどの人(82.7%)が現プロに何等かの興味をもっていた。

さらに、その現プロへの興味の理由では、三群とも「②中国現地での生活」が第1位であり、A群25名(54.3%)、B群38名(36.5%)、C群7名(30.4%)であり、全体で70名(40.5%)であった。

6. 現在の現プロへの不安の有無とその不安の理由

表3に現在の現プロへの不安の有無(問10)について各群別に回答者数を示し、その不安の理由(問11)について、理由の①から⑥のカテゴリー別に各群別の回答者数を示した。また、図10と図11に各群を100%として、それぞれ問10と問11の群別の回答の割合を示した。

現プロへの不安は、A群とB群は「③少しある」が第1位であり、それぞれ22名(47.8%)、51名(49.0%)であり、C群では「②かなりある」の8名(34.8%)が第1位であった。また、全

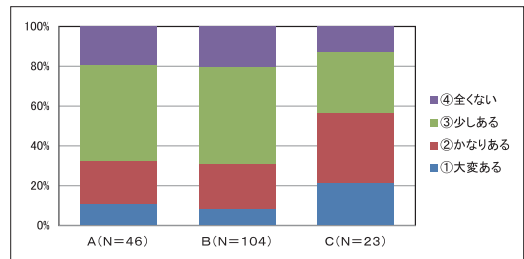


図10. 現在の現プロへの不安の有無

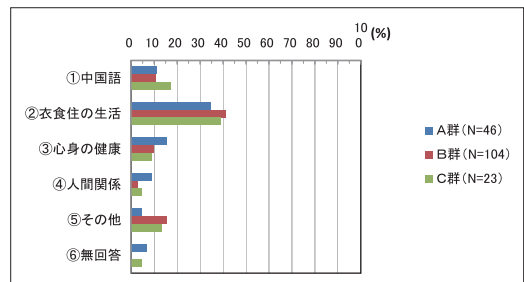


図11. 現在の現プロへの不安の理由

表3. 現プロ参加への不安度とその理由、健康上の不安度とその理由、現プロ生活上での不安の理由と現プロ生活事前教育の授業で知りたいことについての各群別の回答数.

問10. 現在、「現地プログラム」へ参加することに不安がありますか。	A群 (N=46)	B群 (N=104)	C群 (N=23)	計
①大変ある	5	9	5	19
②かなりある	10	23	8	41
③少しある	22	51	7	80
④全くない	9	21	3	33
問11. 問10で不安がある人はどんなことが不安ですか。	A群 (N=46)	B群 (N=104)	C群 (N=23)	計
①中国語	5	11	4	20
②衣食住の生活	16	43	9	68
③心身の健康	7	10	2	19
④人間関係	4	3	1	8
⑤その他	2	16	3	21
⑥無回答	3	0	1	4
問12. 現在、健康上に不安はありますか。	A群 (N=46)	B群 (N=104)	C群 (N=23)	計
①かなりある	4	6	1	11
②少しある	14	19	4	37
③全くない	28	79	18	125
問13. 問12で健康上に不安がある人はどんなことが不安ですか。	A群 (N=46)	B群 (N=104)	C群 (N=23)	計
①持病がある	4	8	1	13
②体調管理面が不良	2	8	2	12
③消化器系が不良	7	9	2	18
④運動不足	3	0	0	3
⑤その他	1	0	0	1
⑥無回答	1	0	0	1
問14. 現在、「現地プログラム」の生活上でどんな不安がありますか。	A群 (N=46)	B群 (N=104)	C群 (N=23)	計
①食生活	15	37	8	60
②住環境	2	6	1	9
③心身の健康	8	13	3	24
④人間関係	4	5	2	11
⑤その他	4	13	4	21
⑥無回答	13	30	5	48
問15. 現地プログラム生活事前教育で知りたいと思っていることは何ですか。	A群 (N=46)	B群 (N=104)	C群 (N=23)	計
①現地でのカリキュラム	4	5	1	10
②食生活 (含む食の安全)	6	6	1	13
③生活上の注意点 (食生活以外)	6	25	3	34
④健康管理方法	2	6	2	10
⑤その他	9	14	3	26
⑥無回答	19	48	13	80

体では、「④全くない」は33名であり、80.9%の人は何等かの不安を抱えていた。

その不安の理由は、三群とも「②衣食住の生活」が第1位であり、全体で68名であり、何等かの不安を抱えている人の48.6%を占めた。

7. 現在の健康上の不安とその不安の理由

表3に現在の健康上の不安の有無(問12)について各群別に回答者数を示し、その不安の理由(問13)について、理由の①から⑥のカテゴリー別に各群別の回答者数を示した。また、図12と図13に各群を100%として、それぞれ問12

と問13の群別の回答の割合を示した。

健康上の不安は三群とも「③全くない」が第1位であり、何等かの健康上の不安を抱えている人は、48名(27.7%)であった。

その健康上の不安の理由は、三群とも「③消化器系が不良」が第1位であり、何等かの健康上の不安を抱えている人のうち18名(37.5%)であった。また、第2位は、「①持病を有している」が13名(27.0%)、第3位は「②体調管理面が不良」が12名(25.0%)であった。

8. 現在の現プロ生活上の不安の理由と授業で知りたいこと

表3に現在の現プロ生活上の不安の理由(問14)について、理由の①から⑥のカテゴリー別に各群別の回答者数を示した。また、授業で知りたいこと(問15)について、事項の①から⑥のカテゴリー別に各群別の回答者数を示した。また、図14と図15に各群を100%として、それぞれ問14と問15の群別の回答の割合を示した。

現プロ生活上の不安は、三群とも「①食生活」が第1位であり、全体で60名(34.7%)であった。また、授業で知りたいことは、B群は「③生活上の注意点(食生活以外)」が25名(24.0%)

で第1位であり、A群とC群には、特に多い回答はみられなかった。また、全体では、「③生活上の注意点(食生活以外)」が34名(19.7%)で第1位であり、第2位は26名(15.0%)で「⑤その他」であった。その他の回答の多くは、「物価や生活費について」と「週末やゴールデンウィークの旅行について」が多かった。

IV. まとめ

現中学部は1997年にスタートしたが、本年までの間に現中学部の志願者数は、中国で起きたSARS、サッカーアジア杯の反日暴動、靖国参拝に対する反日デモ、中国野菜残留農薬問題、毒入り餃子事件やメラミン入り粉ミルク事件、中国産の食の安全に関する問題などが生ずるのに伴って減少した。しかし、逆に北京オリンピックや上海万博の成功、そして、中国が経済的な急成長を遂げるに伴い2010年入試の現中学部の志願者数は過去2番目に高い値となった。

その2010年に入学した学生を対象に、入学前の現中学部に対する興味程度や中国への興味程度がどうなのか、また、現プロへの興味と参加する上での不安がどの程度有り、どんな健康上の不安を抱えており、現地での生活上の不安は

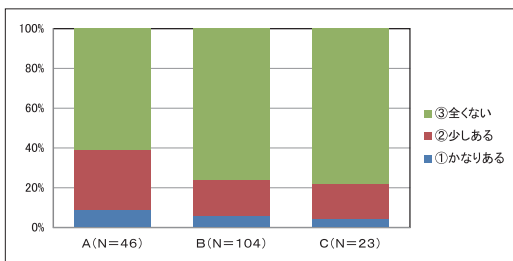


図12. 現在の健康上の不安の有無

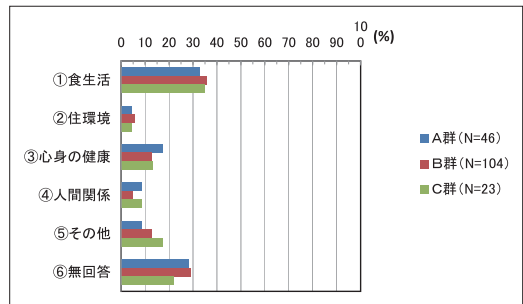


図14. 現在の現プロ生活上の不安の理由

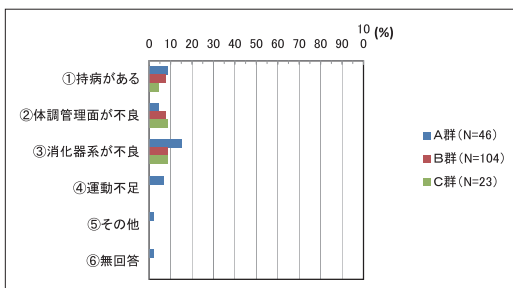


図13. 現在の健康上の不安の理由

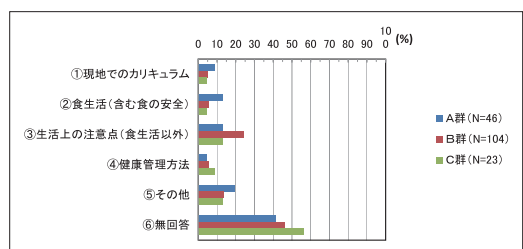


図15. 「現プロ生活事前教育」の授業で知りたいこと

何なのか、そして、「現地プログラム生活事前教育」の授業で何を知らたいのかについて、1年次秋学期の「現プロ生活事前教育」の初回の授業時にアンケート調査を実施した。その結果、以下のことが明らかとなった。

1. 全体の87%の学生は入学前に現中学部に何等かの興味があり、全体の96.3%の学生が中国に何等かの興味を抱き、その中国への興味程度は、入学前に現中学部に興味をもっていた学生ほど高いことが明らかとなった。また、現プロについては、全体の93.6%が知っていたが、その現プロへの興味の高さは現中学部に興味がある学生ほど高く、その理由は「中国現地での生活」に興味をもっていることが明らかとなった。

2. 現プロへ何等かの不安を抱えている学生は、全体の80.9%であり、その理由で最も多かったのは48.6%が「衣食住の生活」であり、現プロへ行く前の授業にて現プロ生活が安心して安全に実施できることを教育する必要性が明らかとなった。

3. 現在の健康上での不安を抱えている学生は48名で、全体の27.7%であった。その理由は「消化器系の不良」18名(37.5%)で、「持病を

有している」が13名(27.0%)、「体調管理面が不良」が12名(25.0%)の順で高かった。また、現プロ生活上の不安では、「食生活」が最も多く、全体の34.7%であった。このため現プロでの食の安全や食事に関する情報や健康維持のための健康上の対策について、より一層十分に教えておく必要性が考えられた。

4. 「現プロ生活事前教育」の授業で知りたいたいの多かった順では、全体では「生活上の注意点(食生活以外)」が19.7%、「その他」が15.0%であった。「その他」の中で多かったのは「物価や生活費」と「週末等の旅行」であり、中国での生活の知識や金銭感覚や旅行での楽しみ等も知りたいことが明らかとなり、このような事項も授業へ今後導入すべきと考えられた。

これらのアンケート調査から得られた事項を取り入れて、今後の「現地プログラム生活事前教育」の授業内容の改善を図り、その授業後に実際に現地生活の不安の軽減や健康な生活をする対策に効果が得られ、中国現地での勉学意欲向上のための動機付けや中国現地生活へのスムーズな導入となったのか、また、一層効果的な授業改善に結びつけることができたのかを今後、検討すべきであると考えられた。